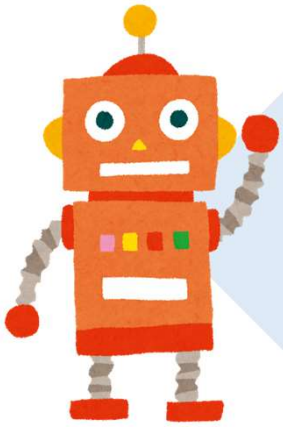
コラルト・タイムス

令和7年2月1日
第10号
カラフル・オルタレゴ

人間拡張・・・人がサイボーグに!?



ロボット技術を介護や障害福祉の分野に活用することで、介護者の負担軽減や障害者の自立支援を図る取り組みとして、見守りや移乗介助、入浴支援、排泄支援などをする介護ロボットの開発が行われてきました。

ロボティクスからのサイバネティクス・・・AIやロボット、バイオ分野に関するテクノロジーの進化のスピードは目覚ましく、そもそもの身体機能を補完、強化することによって、介護そのものが必要なくなっていく・・・そんな未来がもう目の前かもしれません。

人間拡張（Human Augmentation）とは、AIやIoTなどの技術を使って人間の身体能力や知覚などを強化・拡張させる技術で、人間強化（Human enhancement）とも呼ばれます。

残念ながら、故人となってしまいましたが、イギリスのロボット科学者であるピーター・スコット-モーガン博士は、全身の筋肉が動かなくなる難病ALSで余命2年を宣告されたことを機に、人類で初めて「AIと融合」し、サイボーグとして生きる未来を選んだことが話題になりました。

VRヘッドセットなどは、ゲームの世界では当たり前のデバイスになりつつありますし、SFの世界だと思われていたような、自己再構築やアバターという選択肢も、今後は現実化していくことでしょう。

テクノロジーの力を使うことで、体の老いと心の老いを、独立に分けることができるかも？・・・

移動の自由、行動の自由、社会とのアクセス。それらが、どんな状態であっても、どこにいても、テクノロジーによって担保できるのであれば、年を重ねるということは、決して不幸とは限らなくなります。むしろさらに経験を積み、より先の未来にアクセスできるかもしれません。

「“究極の自由”は老いからの解放」などと言われたりもしますが、老いる≒経験を積むことがネガティブなことではないことは“言わずもがな”ですね。

MOONSHOT RESEARCH & DEVELOPMENT PROGRAM

日本では、政府が1000億円規模の予算を投じる「ムーンショット型研究開発制度」があり、その第1の目標が「人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」することです。

計画には「サイボーグやアバターとして知られる一連の技術を高度に活用し、人の身体的能力、認知能力及び知覚能力を拡張するサイバネティック・アバター技術を、社会通念を踏まえながら研究開発を推進していきます」と明記されています。

リアルで楽しもう！

新宿二丁目には「夜のお店（BARやスナック）」はモチロンですが、カフェや食事処、さらには随所で開催されるイベントなど、リアルに楽しめる機会がたくさんあります。

認知症（の進行）を予防するには、なによりも「脳を活性化する」ことが大事。そして、脳を活性化させるには体を動かす・・・「リアルな体験を楽しむ」ことが一番です。

NPO法人コラルトとして、今後は定期的な「認サポ」以外にも、スポット的にリアルなイベントを展開していきたいと思っています。

みなさんも、「みんなでこんなこと、やりたいな～」というアイデアがあれば、是非教えてください！

テクノロジーの力を使えば、体を鍛えてもできなかったことが、できるようになる？

人間拡張によって、今後はパラリンピックの記録がオリンピックの記録を上回ることが頻繁に起きてくる・・・そんな予感がします。

また、「マインド・アップロード」と言って、自分の脳をそのままサイバー空間にコピーしてしまうような技術が現実化してくれば、映画「MATRIX」のような世界線もリアルなものとなってくることでしょう。
もしかしたら今もすでに？・・・

（たいこん）

★参加無料★「コラルトの認サポ」大好評開催中！
次回開催は2025年2月22日（土）18:00～19:30です！
※お申込は右のコラルト公式LINEのQRコードから、お気軽にどうぞ！
公式WEBからもお申し込み可能。（本新聞のバックナンバーも是非ご覧ください！）

コラルトWEB　公式LINE